

第5回総合計画審議会 9月24日(水) 18:30~19:54

出席者 貫田会長 蘆田委員 岩野委員 小池委員 小林委員 白銀委員
鈴木(昇)委員 西村委員 花岡委員

欠席者 廣江副会長 太田副会長 鈴木(昭)委員 高橋委員 谷口委員 林委員
説明員 高橋課長 大浦係長 西田課長 我妻課長 中村参事 森課長 坂口課長
佐々木課長 佐藤児童係長 江崎課長

①産業活性化プロジェクト

委員

総合戦略の資料の農家民泊は継続しているか。

大浦係長

継続実施している。コロナの時休止したが、再開している。

委員

どこの学生を受け入れている。地元の学生か。

大浦係長

他の地域である。

委員

わかる範囲でいうとC評価。農業の応援団づくりについて、小中学校での活動をSNSでよく見かける。町外で宣伝していることも見えている。農業のまちということが広く発信されている。継続的につながりができるような工夫がされている。

委員

取り巻く環境として中小企業の労働力不足とあるが、新工業団地の着工をすると、さらに労働力が不足するのではないか。どのような取り組みをしているのか。

西田課長

運送業はとても労働力不足。求人をかなり企業は実施している。下支えを町として支援を継続して行っている。

農業関連企業が東工業団地のニーズがあり同時に進めている状況である。

委員

近隣自治体から人を連れてくる。賃金アップが労働力不足の解決策にもなるので、助成を考えてもらいたい。それが人口減につながると考えている。評価はC。

委員

K P I を達成しているためC評価。農業担い手については成果指標がない。

第4回の審議会評価が担当課、庁内、外部Dとなったが、整合性取れないのではないかと考える。

高橋課長

産業活性化ということでC判断とした。第三者継承については結実していないこと、親元就農が担い手として育っている。離農農地は拡大したい方が多いことから、新規就農はいないとイメージ。

評価

C

②雇用促進プロジェクト

委員

障がい者就労支援事業は障がい者雇用促進事業ではないかと考えている。

西田課長

事務事業名なのであっている。

委員

評価はC。指標が上がっているため。一般就労の定着率が今後の指標になるのではないかと思う。

委員

起業の人数については他の町村と比較して多いか少ないかは把握しているか。

西田課長

他との比較数としては不明。地元で根差した起業が増えてきている。

森課長

他の自治体のデータは押さえていない。多い少ないがわかりづらいと専門部会から言われている。担当課としては1人でも大変であり、周りの企業などいろいろ理解があって進んでいる。

委員

多いからいいというわけではないが、把握している方がいいと思う。国施策はA型

事業所が減り、B型に移行している状況から、毎年増えているのは特筆すべきことかと思う。新聞をみても起業する人がいる。評価はBでもいいかと思う。

委員

起業に対する支援がとなっているが、セミナーに関連以外の支援はしているのか。

西田課長

起業セミナーを受けていなくても、新規起業の場合は補助がある。

実績は昨年5件新規起業がある。勉強だけではなく、その後支援をしている。

委員

セミナーも女性中心から性別関係なくやっているが、実践で困った時の支援があるといいと思う。評価はC。

西田課長

講師がアフターフォローをしながら起業者、考え続けている方に支援をしている。

委員

広告が毎回同じように感じる。講師得意分野などあるため、内容などに合わせて広告でいいのではないか。

評価

C (B 1 C 7)

③定住促進プロジェクト

委員

奨励制度による転入者数が250人とあるが、どれだけ反映されたか、数字でわかるものは何か。

我妻課長

KPIで設定しているのは、子育て世帯の住宅取得に係る奨励制度の活用件数のため、町外からの転入だけではない。転入かどうかはこの指標ではわからない。

委員

移住フェアということは移住も含まれるのか。

我妻課長

町に相談しての転入数ならば 10～20 人程度。町に入った数はもっと多いが、転勤など含まれている。

委員

2 地域間居住について今後芽室町は力を入れていくかどうか教えてもらいたい。

我妻課長

最終的には移住定住をしていただきたいが、人口減少を考えると、各市区町村の取り合いにしかならない。このため、ふるさと納税、旅行で訪れてもらうなどで、関係人口交流人口を増やしたい。気に入ってもらったら定住してもらう。

二拠点については、まだそこまで力をいれていない。移住については、若い世代をターゲットに進めていきたい。

評価

B

④関係人口創出プロジェクト

委員

評価C。

第3回審議会の評価で指標が分かりづらくて、評価が低くなったと考える。

指標は戦略のものが分かりやすいのではないか。そのように変更したらいいかと思う。

我妻課長

評価しやすい指標がいいことは同意。施策と戦略が微妙にかぶらないところがあるので、差が生じてくる。

委員

ふるさと納税、コーンのブランディングはわかる。具体的に実際やっていることが分かりづらい。進んだ、進んでないの評価が分かりづらい。

委員

取り組みの成果が見えないと出ているが、どんな経緯この意見が出たか。どんな内容かを教えて欲しい。

我妻課長

シティプロモーションの取り組みは、魅力を磨き上げ、町外に発信し認知度上げる。

町内に向けては郷土愛を醸成する。ということである。

施策の評価については、数値の目標が分かりやすいものであるとは思いますが、移住の数や、ふるさと納税の金額だけをもって取り組んでいるか否で良いのかと考えると、設定は非常に難しい。

担当課として力を入れているSNSの発信に関連して、SNSのリアクション、登録数、伸びなども選択肢にはなる。テレビ番組も作成していることから視聴者の数なども選択肢にはなるため、どんな指標がいいのかは、難しい。

わかりやすい指標を表していかななくてはならない。

委員

インナーブランディングを進めるとある。シティプロモーションはこういうことだということを知ってもらうことも必要かと思う。そうすると前進していくのではないか。めむろ＝コーンは定着している。

委員

芽室というのを認識する機会が増えてきたと思うが、取り上げてもらったもので、町で制作しているもの、どのような状況か。

我妻課長

番組は町からの委託。マスコミについては相手から取材にくるものと、プレスリリースで知らせるものもある。

芽室町は全国的に知名度0だと思う。芽室町を全国に認識してもらうために、いろいろな取り組みを行っている。

委員

一番伝えている部分は農業か。

我妻課長

めむろの魅力は農業、景観、食、人の4つ。基幹産業は農業のため、ブランディングとして、コーンを押し出している。

だが、シティプロモーションは農業や観光だけではなく、子育てにやさしまち、医療が充実なども一種だが、現在はスイートコーンを大々的にPRしている。

評価

C

⑤観光振興プロジェクト

委員

評価Eは仕方ない。施策の評価でも感じたが、新嵐山スカイパーク状況が指標の設定時と全く違う中で、評価をするのが妥当なのか思う。

どんな進捗なのかを示すのが委員としても納得感があると思う。広報をみると進んでいるなど思う部分もある。そういった部分を広報してほしい。

中村参事

評価は策定時点で比較するため厳しい評価になってしまう。ただ、前年度との比較については進んでいるため二つの評価が並ぶ。

今年のやることは来年のシートになるが記載していきたい。

委員

町民に見えるよう、発信を進めていってもらいたい。

評価

E

⑥安心子育てプロジェクト

意見無し

評価

C

⑦安心生活プロジェクト

委員

K P I の②③の向上は簡単ではないと感じる。記載のある、地域活動や集団活動を好まない人たちも増えているなどあるが、こういったところをアプローチしなければならないと感じる。

町内会をリノベし、複合型の地域運営組織をつくらないと今後難しいと思う。こういったものが進まなければ、結果として老人の孤独死、災害時に円滑に動けない。子育てがうまくいかないなど出てくると思う。役場、連合会だけでなく、複合的な組織を立ち上げる必要がある。

町内会の加入率と似ている。このまま進むと修正できないと思う。そろそろ複合的な組織化を考えた方がいいと思う。

有澤課長

安心生活プロジェクトは複合的事業であり、なかなか集団活動がままならないと思う。だが、K P I は策定時に盛り返していると考えている。

ただ、目標には全く達していない。町民活動支援センター、町内会支援を行ったので前進とした。次期計画等に向けて課題として捉えていきたい。

委員

町内会連合会も出来ることを可能な限り行うことで、複合的な組織に役立つことになると思う。役場と緊密にやっていくことが必要だと思う。

委員

複合的などは。

有澤課長

まだイメージはつかない。

貫田会長

基礎である町内会を考えていかななくてはならない。各代表が集まっているので、各組織で、話題に出すことがまずは大切だと思う。

委員

この項目は生きていくのに大切なもの。役場も住民自治は必要ということは認識している。住民と役場も一緒にやらないと考える。役場職員も減り、それを地域運営組織であるとする。住んでいる地域ではもう活動している。

協働のまちづくりを支援すると総合戦略に記載があるため、役場には応援して欲しい。

また、実際に行っている団体があるため、団体自体もそういったものを参考にしていかなければならないと思う。

交通についても、役場のタクシー助成などの制度も重要であるが、住民同士が行っている事業も重要。組み合わせていかなければ良くはならない。それは分かっている住民が取り組んだ方がスムーズに行くと思う。

評価

C

⑧輝くまちづくりプロジェクト

委員

成果指標のK P I でジモト大学の参加者数について乖離があるのはなぜか。

江崎課長

策定時にジモト大学は進んでいなく、手探り状態であったため、目標を予想し立てた。高校生の活動のメムクリや祭りの手伝いなどで増えてきた。

委員

評価はC

K P I の②が45%と③95%となっており、文化活動とスポーツに乖離がある。

文化活動の指標が低い。文化活動の場所や設備が不十分、協会という組織があり、公に関わっている組織でも減免などが無いなど、他の町村に比べて低いという声がある。少し見直ししてはどうか。

江崎課長

住民意識調査も毎年同じ人ではないので、評価が難しい。策定時を基準に伸ばす目標を立てた。文化活動については大きく伸びているため、評価はある程度もらっていると思っている。

文化活動に限らず、減免について、高齢者について減免という声はある。

現状は町として広く多くの方に負担してもらおうという方針。

文化、スポーツともに幅広く、いろいろな支援の声があり、今後の参考にはする。

委員

アルペンスキーの団体を手伝っている。健プラ、体育館の予約が取りづらくなっている。芽室町民しか申込みができない状況。だんだん人口が少なくなると町民だけの団体は難しい。ジュニアを育てる面から縛りを緩めてもらいたいと考える。

そうするとこどものスポーツする子どもの人口が増えると思う。

江崎課長

現状、町内を優先している。公の施設なので、意見をいただきながら、なるべく皆さんに使用してもらいたいと思う。意見があれば言っていたきたい。

評価

C

総評

振興局石山課長

策定時はコロナ前、概ねCということは効果的な施策を進めてきたと思う。

K P I のあり方についての意見が多かった印象である。

工業団地について

工業団地、物流を含めて、人材は我々も課題と思う。芽室の団地は入りたいという人がいるので期待している。

町内会について

個人の話ではあるが、住んでいる町内会の加入率は 90%以上である。新興住宅地で、世代や世帯構成などが近いことが要因かもしれない。

若い方が積極的にコミュニティーの場を作るなど活動をしている。そういったところと、ゆるい連携などすると良いのではないかと思う。